

事務事業名	道路維持補修事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課	
総合計画体系的	政策名	(Ⅱ)安全・安心で快適なまち<<定住環境>>	所属G	公共土木G	課長名	渡部 克彦
	施策名	(12)生活道路の整備	担当者名	松村 直樹	電話番号	0854-40-1063
	目的	対 A)市民(道路利用者) B)生活道路(市道)	意図	市内を安全に移動できる。	(内線)	2472
	基本事業名	(036)生活道路の維持管理	予算科目	会計 014002 款 大 01 目 大 01 項 中 01 中 01 事業名	大 01 事業名	道路施設管理事業
目的	対 道路利用者	意図	安全に移動できるように道路を維持管理し、情報を発信する。	中 01 事業名	道路維持補修事業	

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16 年度～)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装、ガードレール等道路施設の破損等に関する自治会、土木委員、郵便局、道路利用者等からの情報受付及び道路パトロール。</li> <li>・現地確認</li> <li>・直営、業者委託・請負等による修繕作業の実施。</li> <li>・作業員賃金、資材費、作業委託・請負費等の修繕経費の支出。</li> </ul>	

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	29年度実績(29年度に行った主な活動)	30年度計画(30年度に計画する主な活動)			
	② 活動指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
ア	修繕要望箇所	件	576	908	762	800
イ	修繕実施箇所	件	466	357	377	400
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	ア	人口【国勢調査(推計)】	人	39,032	38,506	37,794	37,987
		イ	雲南市市道延長	km	1,158	1,160	1,112	1,112
		ウ						
④ 成果指標	ア	要望箇所に対する修繕実施率	%	80.9	60.0	60.0	60.0	
	イ	生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	60.0	71.9	69.2	59.5	
	ウ	生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	71.0	51.7	53.3	70.5	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)	② コストの推移	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
修繕内訳 【大東】106箇所 12,214千円 【加茂】24箇所 2,765千円 【木次】62箇所 6,219千円 【三刀屋】176箇所 10,379千円 【吉田】40箇所 4,567千円 【掛合】69箇所 11,231千円 計 377箇所 47,375千円 工事請負費内訳 13箇所 計19,702千円 役員費1,992千円、委託料1,881千円、使用料及び賃借料31千円、原材料費1,822千円	事業費	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円			
		地方債	千円		13,800	
		その他	千円	18	8	
		一般財源	千円	120,600	68,103	72,803
事業費計 (A)		千円	120,618	81,911	72,803	30,000
人件費	正規職員従事人数	人	18	6	7	
	延べ業務時間	時間	2,320	2,880	3,360	
	人件費計 (B)	千円	9,080	11,425	13,699	
トータルコスト(A)+(B)		千円	129,698	93,336	86,502	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路維持修繕は、地域要望の中で最も多いものとなっており、安全確保のため緊急性や必要性が高いものから順に補修、修繕作業を行っているが十分でない。また、多くの構造物が更新時期となり、今後、更に事業費が必要となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算的制約から要望に対する維持補修の実施は十分でない。</li> <li>・平成24年度に道路維持管理計画を策定、平成28年度から大規模修繕対応について道路施設整備事業を開始した。</li> <li>・各総合センターで実施していたものを、平成28年度より本庁集約した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民から危険箇所等多数の改善要望。</li> <li>・議会から維持修繕の重要性と着実な実施や、防草コンクリートの必要性を指摘されている。</li> </ul>

事務事業名	道路維持補修事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課
-------	----------	-----	-----	-----	-------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度より別枠で、道路施設整備事業を実施している。</li> <li>・平成26年度より大規模な修繕については、防災・安全交付金を活用した事業で取り組んでいる。</li> </ul>
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市道、林道、農道の日常修繕業務は、総合センター事業管理課が一括対応しており、既に統合の形態が取られている。</li> <li>・道路環境整備事業と、連携しながら維持管理を行っている。</li> </ul>	
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
D 公平性	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路河川愛護作業など、市民をあげてボランティアに取り組んでもらっている。しかし、今後は高齢化や人口の減少によりボランティア作業にも限界がある。そのため、本事業は益々必要となっていく。施設老朽化等による修繕が増加する中、道路環境整備事業と連携しながら本事業を進めていく。</li> </ul>
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路河川愛護作業など、市民をあげてボランティアに取り組んでもらっている。しかし、今後は高齢化や人口の減少によりボランティア作業にも限界がある。</li> <li>・道路維持修繕の必要性は、今まで以上に高まっていくため、道路環境整備事業と連携しながら本事業を進めていく。</li> </ul>	

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上	●																			
	維持		×																		
	低下	×	×																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度に策定した「道路維持管理計画」に基づき平成29年度より、一定規模以上の維持修繕は「道路施設整備事業」により修繕を図っている。また、平成26年度より防災・安全交付金を活用した事業に取り組んでいる。</li> <li>・平成24年度末で終了した公共施設リフレッシュ事業の代替事業として、平成29年度から「道路愛護事業」により、草刈等の維持業務を実施している。</li> </ul>		<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			